

2019.12.12(5 日目)今日は食欲旺盛。子グマは、母グマが食べ始めると、まねて自分も食べ始める。新聞を見て、新潟の動物愛護団体が 80 キロの藁と果物を持ってきてくださった。ありがたい。

2019.12.11 (4 日目) 午前中少し果物を食べただけ。午後は親子 3 頭で毛布にくるまってひたすら寝入っていた。

2019.12.10(3 日目)よく見ると、母グマは痩せてがりがり。今日は落ち着いたのか、本部が持参したドングリを狂ったように食べだした。子グマたちは与えた水を飲んでいて、冬ごもり前の食い込みが全然できていない様子。当協会が保護しなかったら冬ごもり中に死ぬパターンだったと思われる。急遽、本部からドングリ第 2 弾を新潟の母子に送る。

今年は全国至る所でこのようなクマがたくさん誕生していると思われる。実話「クマに助けられた男」を生んだ新潟です。同じ生きとし生けるものとして、今度は人間がクマを助けてあげましょう。

本日本部は、この母子グマをもっと大きな檻に移すための手配に追われました。大きな檻を兵庫から新潟まで運ぶユニック車をどこで借りるのか。中のワラ入れはどうする。誰が運転するのか・・・一つの事業をなすためには裏方が何人も必要です。全国組織を持つ熊森だからこそできる事業です。

2019.12.10(2 日目)以下は、19:00 にこの日のことを整理し直したものです。

0:00 本部職員がスタッドレスタイヤ付け替えを終え、兵庫県から車で、3 頭を救命せんと新潟に向かう。到着予定時刻午前 6 時。ところが、道中、雪と道路凍結に悩まされる。不眠不休で車を走らせる。

6:30 市、県、警察、麻酔業者、猟友会現地集合

7:00 建物から追い出そうとしたところ、冬籠りしているはずの 3 頭が（人間が危害を加えて追い出そうとしたのだから当然）向かってきたので猟師が散弾銃を発砲したが、当たらなかった。

8:30 本部から診療所に電話して、親子グマがまだ殺されていないことを確認し、当協会職員が間もなく到着すると思うので、それまで何とか殺されないように踏ん張って欲しいと伝えるも、責任者はここにいないとの事なので伝言を依頼する。

南魚沼市の担当部署である環境交通課に電話して、市の方針を聞くと、建物の中では発砲できないので、捕獲して他の場所にクマを移動させて殺処分するとの事。（南魚沼市では 2019 年 4 月からこれまでにすでに 89 頭のクマを殺処分していました。）このクマは、日本最大のクマの保護団体である当協会が保護できると思う。当協会の職員がもうすぐ現地に到着するので、とにかく殺さないで待つてほしいと訴える。担当者は皆現地ということなので、とにかくこの話を現地担当者に伝えてくれるよう頼む。

10:00 その後、3 頭が奥に引っ込んだので、今度は業者が麻醉銃（吹き矢ではない）を母熊に放ったところ命中した。（昨日は 3 回麻醉銃を発射。うち 1 回は命中。今回は 2 回目の麻醉銃命中）

10:30 熊森本部職員、やっと現地到着。来春に南魚沼市の山に放獣していただけるということを交換条件に、熊森が春までこの 3 頭を預かると申し出て、交渉開始。最初市は拒否したが、そのうち来春、南魚沼の山にこの 3 頭を放獣するという確約を南魚沼市環境交通課担当者から得たため、1 頭でも助きたい熊森が、保護を正式に決定。

（他県ですが、人間が一旦保護飼育したクマを、これまで数十頭山に放獣している町があります。担当されている猟師さんに会いに行ってお話をお聞きすると、みんな山で元気に暮らしている、発信器で確認している。戻ってきたクマはいないということでした。データを見せてもらって熊森も確認しました。この様な事実を知った上で、熊森は放獣を提案しています。）

11:30 子グマ（体長約 50 センチ）は麻醉をかけず、猟師が手づかみでまず有害駆除用の檻に放り込む。この時、子グマ、猟師の足にかみつくが、猟師大丈夫。母熊の睡眠状態を確認後、母熊を 4 人で檻に運び込む。檻の中では、麻醉をかけられて目を開けたままの母熊に 2 頭の子グマが抱き付いていた。地元猟師たちのクマに対する乱暴な取り扱い方にショックを受ける。有害駆除用の檻に「有害動物」のステッカーが貼られているのを見てびっくり。そのような意識なのか。今世の中で一番有害動物は、人間だろうに。

13:00 春までこの親子グマを預かれる新潟県内の安全な場所と人を探す。

17:00 熊森が安全な場所に無事保護した。市役所の環境交通課に再度電話して、来春、南魚沼の山にこの親子 3 頭を放獣するという約束を確認し、今日中に文書でもいただきたいと依頼。今日中に送りますという返事をいただいた。

現在、母熊も麻酔が覚めて、3 頭皆元気。水とドングリを与えたが、もう冬籠りのスイッチが入ってしまっているのか、食べない。檻の中に毛布を入れて暖かくしてやった。

近々、もっと広い檻に移して、床には藁を入れてやる予定。

今後は熊森協会が責任をもってこの 3 頭を新潟県内で保護します。この後のことは、今後話し合っていく。ご安心ください。

日本では今、クマが里に出てきたら殺すのが当たり前になっていますが、とんでもない間違い。クマが里に出てきたら生き残れるように人間が助けるべきで、そのような流れを熊森協会は作っていく。

みなさん、熊森協会をもっと大きくして下さい。そうしたらクマはもちろん、いろいろな野生動物を原則殺すことなく人間と野生動物が共存する社会を作っていきます。

放獣確約文書 F A X を夜遅くまで待ったが、この日、入らなかった。

マスコミ発表文書 3 枚が入ったのみ。

2019.12.8 日曜日

(事件 1 日目)

本部に、南魚沼市のクマを助けてやってほしいというメールがいくつか入っていることに、スタッフが夜、気づく。あわててネットで情報集め。

現地警察にすぐ電話して、この親子グマを当協会が助けられると思うので殺すのを待つてほしいとお願いするも、決めるのは市なので市役所に電話するようにと振られる。

市役所に連絡すると警備の方が出られ、日曜日の夜ということで、関係者に繋がられないという不親切な対応だった。

仕方なく、本部から診療所に、この親子グマを当協会が助けられると思うので殺すのを待つてほしいと F A X を入れる。